

永平寺町社会福祉協議会だより

編集発行/社会福祉法人永平寺町社会福祉協議会

Vol.28

2011 October



ふだんの
くらしの
しあわせ

やつぱり、 ここがいい ふるさとの力を信じてる

去る8月21日、九頭竜フェスティバル2011「永平寺大燈籠ながし」(主催 九頭竜フェスティバル実行委員会)が九頭竜川河川敷において厳かにおこなわれました。

東日本大震災で犠牲になられた方の供養と、被災地の一日も早い復興を祈り、岩手県陸前高田市と隣町の住田町の仮設住宅にお住いの40名の方が、大燈籠ながしにご参加くださいました。

後日、ご参加いただいた被災者の方より頂いたお手紙(一部抜粋)をご紹介します。

「先日は永平寺町にご招待いただき誠にありがとうございました。燈籠ながしでは、なんと一万分の一である私の主人の燈籠を、岩手から一緒に参加した友が見つけてくれました。何かのご縁でしょうか…。あの灯りと一緒にゆらりゆらりと静かに天国に旅立っていったであろう主人を思うと…ただただ感謝のみでございます。」

「忘れることのできないあの津波、言いたいこと、お別れの言葉も言えないまま、無念の想いで黄泉の世界へ旅立たなければならなかった亡き人たちを思うと、心底から笑える日はありませんでした。神様・仏様に選ばれず、引き続き現世での修業を課せられた私たち、つらい日々でした。しかし、このたびのお招きでどんなに救われたことでしょうか。高田を離れ、水と緑豊かな永平寺町で過ごした時間はとても心が安らぎました。これからは亡き人々と、全国の皆様に自慢できるような故郷陸前高田を復興させる日を夢見て、できることから少しずつ努力をしてまいります。」



津波で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市の名勝「高田松原」。大津波に耐え、たった一本だけ残った、希望の一本松。



「3月11日、津波に追いかけられ、私は孫を背におぶりながら、ひたすらに逃げました。命をつなぐことができ、今は仮設住宅で毎日を送りながらも、心にポカッと穴が空いている状態の時に、永平寺大燈籠ながしのお話をいただきました。灯籠流しの日、九頭竜川の川辺を歩き、空を見上げました。高田で亡くなった友人も今日は来ていると思えました。汗と涙と一緒に拭きました。そして家族の二頁でもあった猫の「キセキ」の燈籠を探しました。肉親を亡くされている方が多い中で猫の…という迷いもありましたが、燈籠と一緒に探してくださった僧侶の方の「人間も動物も同じですよ」という言葉に救われ、自分の手で燈籠を流すことができました。本当にありがとうございました。」

おらあ やっぱりここがいい
 大津波で全部なくなっても
 地震でばっこっされでも
 やっぱこの街が好きだ
 やっぱここに居たい
 ここあ一番だ
 二度と同じけしぎあ見れねあども
 二度と同じ建物あただねあべども
 おらどの目にあしっかり焼ぎついでいる
 わっせるごとねあ あ景色
 おらどの街
 やっぱりここがいい

写真は、被災前の日本百景「高田松原」と三陸海岸



「未来へ伝えたい 陸前高田」
 企画・制作・発行 タクミ印刷有限会社
 定価 1,500円(税込)



丸岡町六呂瀬山から永平寺町を望む



清らかな水と、豊かな緑に囲まれた私たちのふるさと永平寺。
 私たちも「やっぱり、ここがいい」と胸を張って言えるような、そんなふるさと永平寺にしていきたいですね。

良くするしくみ。



共同募金

「赤い羽根」は俳句の季語にもなっているように人々の間に浸透しています。クが点滅しそうですね。ここで共同募金についてわかりやすく説明いたします。

中央共同募金会ホームページより <http://www.akaihane.or.jp/>



期間は毎年10月から12月の3ヶ月

毎年10月1日から12月31日までの3ヶ月間、日本中で赤い羽根募金が行われています。

誰にでもできるボランティア

赤い羽根募金は、たくさんのボランティアの人たちが支えています。また募金をよびかける人も、募金に協力する人も、みんなボランティアです。

一世帯あたりの目安額って？

目標額を達成するために、一世帯あたりの目標額を示しています。これはあくまで目安ですので、募金額は皆様のお気持ちで決めてください。

永平寺町の「戸別募金」の目安額は600円です。各世帯にお願いする「戸別募金」は、区長さんや福祉委員さんにご協力いただき、募金活動を行います。このほかにも「学校募金」「職域募金」「街頭募金」などがあります。

共同募金はあらかじめ使い道や集める目標額を決める「計画募金」です。

平成23年度の目標額は…
福井県 134,991,000円
永平寺町 3,050,000円

お問合せは

社会福祉法人 福井県共同募金会 永平寺町共同募金委員会

連絡先 永平寺町石上27-27 TEL: 64-3000 (永平寺町やすらぎの郷内)

じぶんの町を 赤い羽根



「赤い羽根共同募金のことを全く知らない」という人はほとんどいません。また、でも、共同募金の仕組みや特徴をきちんと把握しているか、というと、「？」マー

赤い羽根募金は1947年(昭和22年)から

日本で赤い羽根共同募金が始まったのは、1947(昭和22年)年のことです。当時は第2次世界大戦が終わったばかりで、「困っている人がいる中で、みんなで助け合っ

ていこう」と赤い羽根募金が日本中で行われました。



都道府県を単位に実施

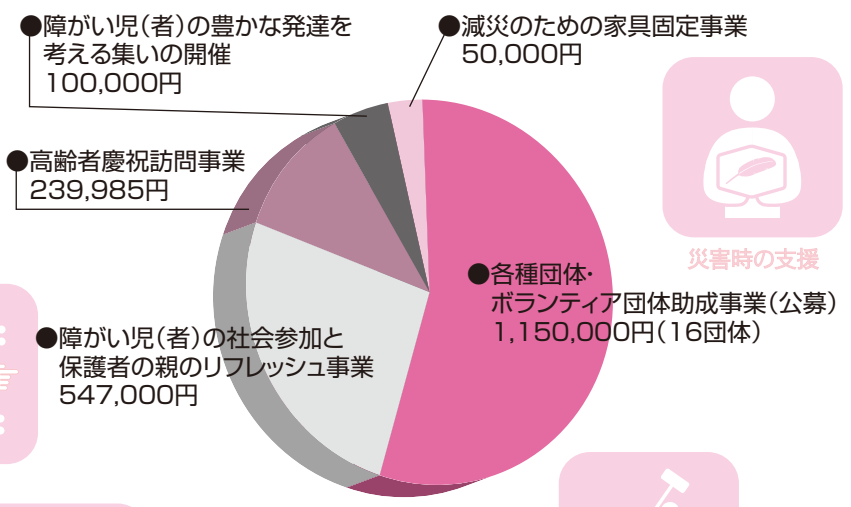
赤い羽根共同募金は、都道府県を単位として行われています。各都道府県にお寄せいただいた寄付金は、都道府県ごとに配分委員会の審査を経て、都道府県の福祉施設・団体の活動に役立てられています。

平成22年度の報告

昨年皆様から寄せられた募金は福井県全体で130,200,887円にのぼり、そのうち永平寺町では3,000,059円のあたたかい善意をお寄せいただきました。

寄せられた募金は、社会福祉協議会の事業や福祉ボランティア団体が行う事業を通じて地域の福祉の推進に役立てられています。

永平寺町では、2,086,985円の配分を受け使い道は右記グラフの通りです。



たとえば、赤い羽根共同募金はこのように使われています。

- 子ども達の遊び場に、おもちゃや遊具をそろえています。
- 車いす用の自動車購入に役立てられています。
- ひとり暮らしの高齢者へ、ボランティアが作ったお弁当を届けます。
- 災害の時にボランティアを受け付ける「災害ボランティアセンター」を設置します。

共にささえあう地域を目指して

—敬老の日を終えて—

“敬老の日”といえば、もともと「老人を大切に、お年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」という主旨から始まったそうです。

最近、「お年寄りを敬いましょう」と一言でいっても、どう敬ってよいか、なぜ敬うのかが分からないまま、敬老の日を迎えていないだろうかという疑問にぶつかりました。

ふだんの暮らしの中で、ご近所にいるお年寄りとの関わりがほとんど無くなっていく中、“長寿”“敬老”の意味についてももう一度考えてみようと思いました。

そこで、お年寄りの“生きるちから”にスポットをあててみようと思います。

今回お話を伺っているのは、介護老人福祉施設 永平寺ハウス事務長の中川 晶展さんです。



聞き手
永平寺町社協 本所
主事 大久保 健

親やお年寄りへ感謝してますか？

大久保 中川さんが幼少のころと今を比較し、長生きすること（長寿）に対する意識（敬う気持ち等）はどう変わっていると感じますか？

中川氏 昨今、平均寿命の高年齢化にともない、90歳を越えないと長寿、長生きと認識できない感があります。80歳代はまだ元気なお年寄りでしょう。

私の幼少の昭和20年代～30年代前半は、もちろん平均寿命が短く、病で床に臥す、寝たきりの期間も短かったと思います。つまり、家族のために苦勞するとすぐ、あるいは苦勞しながら目の前で亡くなるケースが多かったのではないのでしょうか。子供の目から見た親やお年寄りの姿は、朝から晩まで汗水ながして家族のために働く姿でした。しかも衣・食・住

のほとんどが自給自足の時代で、裁縫、農作業、山仕事、機業に明け暮れ、冠婚葬祭では地域や親戚に何日も出向く姿でした。



愛情いっぱいの手作りの服、食事を与えられ、大事に育てられた

記憶は今も親やお年寄りへの感謝の気持ちとなっています。ただ、昨今においては親の働く姿が子供に見えないことや、手作りで子供に提供する機会が減り、親やお年寄りへの感謝の気持ちが薄くなってきているのではないのでしょうか。

役割づくりが大切

大久保 お年寄りの孤独死が話題となりました。地域において、子供も含めた若者とお年寄りが“共存”していくために

は、一番何が必要だとお考えですか？

中川氏 以前は地域の伝統、慣習が重んじられ、冠婚葬祭、その他において地域・親戚の大勢の人たちの助け合いで守ってきました。例えば、葬式では祭壇づくり、精進料理作り、御膳の種類・並べ方、お椀の配置、調理方法、席順等々、必ずお年寄りが若い人にアドバイスしながら進めていました。お年寄りの出番・役割があったわけです。しかも周囲から頼られて。

現在、それが段々と無くなっています。手足が動く間は地域や家庭での“役割づくり”が必要ではないでしょうか。

お年寄りの経験・知恵を活かす

大久保 東日本大震災は、戦後最大の被害をもたらしました。復興へはまだまだ長い道のりです。

今の日本の礎は、戦中そして戦後の約70年間を生き抜いてきた現在のお年寄りの方々が築き上げてきたといっても過言ではないと思います。東日本大震災の復興にあたってお年寄りの方々の“生きるちから”はどう活かされてくるとお考えですか？

中川氏 今の情報化時代、お年寄りに聞かなくても知恵袋的なものは知ることできますが、こと私たちが住む地域については、やはりその地域のお年寄りの経験・知恵が必要だと思います。それをどう伝えていくか、どうこれからの若い人たちが受け止めていくかで活かされてくると思います。三陸のある地区では先祖が経験した津波によって高台に住むことを教わり、被害から免れたと聞きます。

大久保 お年寄りの方がこれまで培ってきた知恵を共有しながら、それぞれが地域で何らかの役割を担い、支え合って生きていくことが大切だと思います。



地域のための地域による “小地域福祉委員会”

■小地域福祉委員会とは

定期的に地域の関係者が集まり、生活を通じて気付いた地域の問題を持ち寄り、相互に情報交換し、その問題の解決に向けて住民活動の展開を検討していきます。

小地域福祉委員会の立上げに関心のある方はお気軽にご相談ください。委員会の運営活動に対して年間30,000円を上限に助成金を交付します。

問い合わせ：永平寺町社会福祉協議会・各支所窓口まで

■小地域福祉委員会から、こんな活動が生まれました

- ★区内の清掃活動を年2回に
- ★除雪活動（高齢者世帯宅の玄関前）
- ★自主防災活動（災害時要援護者の調査）
- ★ふれあいいきいきサロンの立上げ

点から線へ
そして面になる

「洋裁学校に通うなんて当時は珍しいことでした。すべては親のおかげ…」

当時を思い出すかのように目を細めながら語るのは、永平寺町栗住波にお住いの鈴木よ志子さん(88)。

まず玄関で迎え入れてくれたのは、よ志子さんお手製のとても可愛い細工たちの数々。その愛らしさにおもわず笑みがこぼれてしまいます。

細かい部分までこだわった縫い物はまさに匠の技。

「昔ほど上手くできなくなっただけど、自分の趣味として楽しんでやっています。」と語るよ志子さん。

いえいえ、とても趣深くて、お上手ですよ！これからもお元気で…。



鈴木 よ志子さん

お手製の
可愛い細工

今月の人

上志比建築組合 会長 今澤勝さん

永平寺町上志比地区の主に小学校・中学校・幼稚園において奉仕活動をしています。細やかな仕事からタイルの張替えなど、その活動は多岐に渡ります！

たとえば、教員室の棚やスキー立ての作成、下足箱の修繕…なんでも来いの地域の頼りになる存在！なんとその活動をもう30年以上もされているそうです。

組合員は13名で、年々少なくなっただけですが、奉仕活動を通じて組合員どうしの親睦も図れると今澤さん。ご近所の方に頼まれて、畳の補修や床の補強をボランティアでされることもあるそうです。(材料費は負担いただくこともあります。)

これからも地域のためによろしくお願いします！



PHOTO NEWS

「ほほえみ」に載っているあなたの写真を差し上げます。お問い合わせ 永平寺町社会福祉協議会 ☎0776-64-3000

住宅内の漏電点検を実施します ~万が一に備え、漏電の点検をしておきましょう~

無料

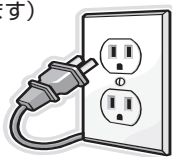
永平寺町社協では、一人暮らしの高齢者世帯等で希望される方を対象に、家屋の漏電や電化製品のコンセント、プラグなどが原因で発生する火事や事故を防止する目的で漏電点検事業を無料で実施します。

内容 電化製品のコンセント、プラグ等の基本点検、家屋の漏電点検など
(但し、修繕に関しては自己負担でお願いいたします)

対象 町内65歳以上の一人暮らし高齢者世帯等

申込 最寄の社協事務局までお申込ください

締切 平成23年10月17日(月)まで



申し込み多数の場合は、昨年実施していない新規の方を優先にさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

備えあれば
憂いなし

減災のための家具固定 ~大地震に備え、家具を固定しておきましょう~

無料

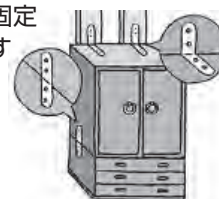
永平寺町社会福祉協議会では、地震による家具の転倒予防のため家具固定サービスを実施します。

内容 居室・寝室の家具をL字金具等で固定(3点)します。なお、家具の固定作業には家具を固定するための講習を受けたボランティアが行います

対象 町内在住で65歳以上の一人暮らし高齢者や老夫婦世帯等

申込 最寄の社協事務局までお申込ください

締切 平成23年11月18日(金)まで



《お問い合わせ》 永平寺町社会福祉協議会 各支所

この事業は、共同募金の配分金で行なわれています。

■上志比支所 TEL64-3000 ■永平寺支所 TEL63-3868 ■松岡支所 TEL61-0111

ココロとカラダに“旅”が効く

障がい児(者)とその家族の方を対象とした障がい児(者)リフレッシュ事業(山中温泉と県立恐竜博物館への旅)が、9月23日(祝)~24日に行われました。当事業は共同募金の配分事業の一環で今年で5回目。

今年度は障がい児(者)とのご家族の12名が参加されました。

当日は晴天に恵まれ、絶好の旅行日和になりました。山中温泉では伝統の「こいこい祭り」が開催されており、参加者の方もそぞろ歩きを楽しんでいらっしゃいました。

宿ではボランティアの方の介助のもと入浴を楽しみ、その後は旅の醍醐味であるお食事に舌鼓をうちました。

2日目は県立恐竜博物館へ。今や福井の観光名所だけに、多くの人で賑わっていました。世界最大級のティラノサウルスの化石にびっくり仰天!

皆さん大いに笑い、参加者同士の交流も図れた2日間となりました。

2日間お手伝いいただいたボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました。



永平寺町の「サロン」
活性化に奔走する

愉快・戦隊
サロンたちあげ隊

今日も行く!



世代をつなぐ「思い出サロン」 ~上志比 吉峰地区サロン~

今回ご紹介するサロンは、上志比の吉峰地区サロン。高齢化が進む吉峰地区において、お年寄りの方に喜んでもらうための、面白い企画があると聞きお伺いしました。

テーマは「思い出サロン~あの時・あの人・楽しいとき~」きっかけは、吉峰地区の小地域福祉委員会でのこと。地域的话题を話し合うつもりが、ついどうしても昔の話になってしまう…せっかくならもっと大勢で寄り合って昔を振り返ろう、ということで今回の企画が立ち上がりしました。

当日は小さなお子様からお年寄りまで、地域の各世代の方々に賑わいました。

各家から持ち寄られた昔懐かしい写真をプロジェクターで映し出し、過ぎ去りし時代に思いを馳せていらっしゃいました。

歴史を物語る数々の品も登場! 砂糖購入通帳、昔は砂糖を買うためだけの通帳があったんですね。

また明治3年以前の「第七郷」の旗もお目見えしました。今の松岡あたりから吉峰までの九頭竜川の南側を「第七郷」と呼んだそうです。“吉峰村”と書かれた藍に染まった旗は、廃藩置県によりめまぐるしく変遷してきた“第七郷”吉峰村の歴史を静かに物語っていました。



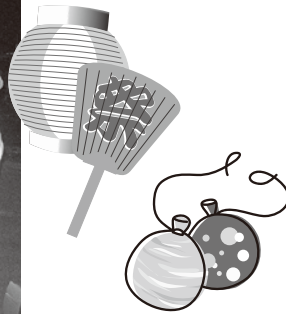
サロンについてのご相談は、永平寺町社会福祉協議会 上志比支所 吉田/高橋までお気軽にお問合せください。

町内の福祉施設を
ご紹介します。

社会福祉法人 太陽会 特別養護老人ホーム アニス松岡

9月23日、アニス松岡で第6回目となる「アニス祭2011」が開催されました。毎年、少しずつ進化しつつあるお祭りですが、今年は建物の外で出店をしました。台風がぎりぎりのところ(!?)で過ぎるという幸運にも恵まれ、地域の方々やたくさんのボランティアさんに支えられて大成功！フィナーレでは花火が打ち上げられ、大歓声の内に締め括られました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(写真・文 アニス松岡 次長 辻直之さん)



外出をもっと身近に!

福祉車両の貸出し はじめます!

永平寺町社会福祉協議会では、10月より福祉車両の貸出しを始めます。

当事業は車いす使用者や外出困難で家にこもりがちな高齢者の方が、積極的に外出し、楽しい充実した生活を送っていただくことを目的としています。

- 対象** 利用者は永平寺町在住で車いす使用者、外出困難な高齢者または障がい者とその介護者とする。
- 費用** 無 料(ただし有料道路代、ガソリン代は利用者の負担となります。)
- 仕様** トヨタ「ノア」車いす1脚使用(車いす使用時6名定員/スロープ付/オートマチック/4WD)



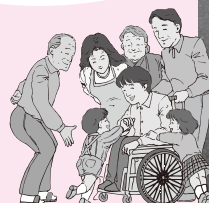
「乗り心地も最高♪」

「スロープだから
乗り降りも楽々!」



詳しくは、永平寺町社会福祉協議会 (担当: 大久保) までお問合せください。

TEL: 0776-64-3000



心配ごと相談

弁護士による無料法律相談

相談時間 13:00~16:00

10月27日(木)

松岡福祉総合センター「翠荘」

〈担当弁護士〉安江 勤 氏

11月24日(木)

永平寺老人センター「永寿苑」

〈担当弁護士〉安部 剛 氏

12月15日(木)

永平寺町やすらぎの郷

〈担当弁護士〉野条 泰永 氏

※事前に電話予約が必要となります。

福祉総合相談

相談時間 13:30~16:00

10月13日(木)

永平寺老人センター「永寿苑」

10月20日(木)

永平寺町やすらぎの郷

11月4日(金)

松岡福祉総合センター「翠荘」

11月10日(木)

永平寺老人センター「永寿苑」

11月17日(木)

永平寺町やすらぎの郷

12月1日(木)

松岡福祉総合センター「翠荘」

専門カウンセラーによる 子育て相談

相談時間 13:30~16:30

10月17日(月)

永平寺町やすらぎの郷

11月14日(月)

松岡福祉総合センター「翠荘」

12月12日(月)

永平寺町開発センター

寄付御礼

次の皆様から、社会福祉のためにたくさんの「まごころ」が寄せられました。深くお礼申し上げます。皆様からいただいた寄付金・寄贈品は、寄付されました方の希望される用途を尊重させていただきますとともに、社会福祉のため有効に活用させていただきます。

平成23年8月1日~9月22日

	受領日	氏名	(住所)	金額(品名)	受入区分
寄付金	8月1日	北山 治和 様	鳴鹿山鹿	¥50,000	永平寺デイサービスセンター事業
	8月11日	毛利 敏一 様	大月	¥970	福祉サービス利用負担軽減事業
	8月26日	匿名 様	匿住所	¥30,000	松岡デイサービスセンター事業
	9月5日	匿名 様	匿住所	¥10,000	上志比デイサービスセンター事業
	9月13日	匿名 様	匿住所	¥970	福祉サービス利用負担軽減事業
	9月13日	匿名 様	匿住所	¥970	福祉サービス利用負担軽減事業
物品	8月15日	匿名 様	匿住所	ティッシュ、タオル	永平寺デイサービスセンター事業
	8月17日	匿名 様	匿住所	はくパンツ、シャツ、石鹸、タオル、歯ブラシ	永平寺デイサービスセンター事業
	8月18日	匿名 様	匿住所	半そでシャツ、半ズボン下、ランニング	上志比デイサービスセンター事業
	8月29日	匿名 様	匿住所	リクライニング エアーマッサージチェア	松岡デイサービスセンター事業
	8月31日	匿名 様	匿住所	はくパンツ3袋、尿とり3袋	松岡デイサービスセンター事業
	9月12日	奥出 唯一 様	北島	尿とり、おむつ、ワイドシューズ、防水シューズ、はくパンツ	上志比デイサービスセンター事業
	9月20日	匿名 様	匿住所	新米	永平寺デイサービスセンター事業
	9月22日	匿名 様	松岡神明	電動ベッド	永平寺デイサービスセンター事業

登録ヘルパー募集!

あなたの資格や暮らしの中での少しの時間をいかしませんか?勤務形態、賃金等、詳しくは社協までお問合せください。

おおむね60歳までの方で、原則としてホームヘルパー養成研修2級課程以上の修了者、もしくは介護福祉士、または看護師免許を有する方(今は修得していないが、修得見込みのある方)で運転免許所有の方。

※3年以上の実務経験を積むと介護福祉士国家資格を受験することができます。

職員の異動 (平成23年10月1日付)

氏名	新	旧
加藤 裕 治	事務局次長 兼 福祉用具貸与事業所 管理者	事務局次長
中島 康 春	主事 兼 福祉用具貸与事業所 福祉用具専門相談員	主事
野村 和 男	主事 兼 福祉用具貸与事業所 福祉用具専門相談員	主事



Coming Soon!

あの感動が再び...

ふれ愛フェスタ2011 開催決定!!

テーマ

「愛の絆♥100パーセント元気!!」

開催日：平成23年11月13日（日）

会場：上志比文化会館サンサンホール

ボランティア スタッフ 大募集

フェスタ開催にむけてボランティアを募集しています。
フェスタを楽しいイベントにするためにあなたの力を貸してください。
みんなでフェスタを盛り上げていきましょう。

- ステージ出演者
- 模擬店運営
- 開催準備スタッフ
- 当日運営スタッフ

<お問合せ・お申込み>

永平寺町社会福祉協議会

本所・上志比支所 ☎0776-64-3000 担当：野村
 松岡支所 ☎0776-61-0111 担当：小澤
 永平寺支所 ☎0776-63-3868 担当：嶋川



サボテンさん、素敵な花を
ありがとう!

わたしたちの職場にサボテンの花がやってきました♪

育て主の方より、「花は1日しか咲かない」と聞き、どんな花が咲くのだろうと心待ちにしていました。

すると翌日の朝、まるで恋人のように寄り添いながら可憐な花を咲かせているではありませんか！ピンッと背伸びして、桃色の可愛らしい花弁が「わたしを見て！」と言わんばかりに精一杯咲き誇っていました。

次の日の朝、わずか1日という短い命を終え花弁を閉じた姿がそこにはありました。